音楽科学習指導案

指導者　　松　前　良　昌

日　時　平成25年11月30日（土）　　第１校時（10：00～10：50）
年　組　中学校第３学年１組　計39名（男子19名，女子20名）
場　所　中学校音楽教室
題　材　合唱表現を工夫しよう
混声合唱とピアノのための「いまぼくに」から　Ⅰ．よげん
作詩：谷川俊太郎　作曲：信長貴富　校内用編曲：松前良昌

題材について

本題材では，歌詞の内容や曲想を理解し，味わうことによって，生徒自らが自己のイメージや感情を意識して曲にふさわしい合唱表現を工夫していくことをねらいとしている。教材の“よげん”は2004年に松下中央合唱団によって委嘱初演された。近年は中学や高校の合唱部がコンクール等で歌うなど，中学生がクラス合唱で歌うには難易度の高い楽曲である。作曲に際して信長氏は，「組曲冒頭，絶望的な響きから開始する。その先にあるものは何か。谷川の言葉は決して楽観的ではない。」と楽譜巻頭に綴っている。人間による開発により自然はその場を奪われ，文化の拡大により世界は縮小されていく。そして，はだかの心をもつ子どもは，時に文化に反するため，文化を教え込まなければならない。そうなのか…谷川氏は，この滅びの「よげん」によって問いかけている。楽曲は日頃見かけない音符，気息音や息を大量に混ぜた声の使用など，技能的に容易とは言えない。しかしながら，詩は生徒に深く読み取って自分たちの未来について考えるよう問いかけている。また，シンコペーションのリズムは，他パートとのアンサンブルを強く意識させ，次々と変化する曲想は生徒に表現方法を考え続けるよう迫ってくる。義務教育９年間の集大成として，自分たちで解釈しメッセージを発信しながら歌唱表現する限界に挑む価値のある名曲である。なお，ここでは授業者自らが中学生の音域に合わせて，手を加えた楽譜を使用することで，少しばかり歌いやすくしている。

本校の生徒は音楽に興味・関心をもっている生徒が多い。９月から実施した校内合唱コンクールの練習では，３年生は自ら授業で取り組む前に放課後等にパート練習をして，授業では全体練習の時間を確保するなど，意欲的かつ計画的・効率的に取り組んでいる。また，縦割り交流では，１年生を指導している。これらのことは下級生にとってよい模範となっている。授業では，指導に対しての反応もよく，自ら考えて表現しようとしたり，自分で詩の意味や曲の構成について調べたりする生徒もいる。本校では，個に応じた音域，バランスなどを考慮するとともに，より豊かな音の重なりをめざして第２学年から混声四部合唱に取り組んでいる。その結果，合唱にふさわしい発声が次第に身についており，豊かな響きをもった質の高い演奏となってきている。しかし，技能面の向上の一方で，楽曲のどの部分でどの技能を活かして合唱表現を工夫するかを主体的に考えることは，十分には出来ていないと考えている。しかしながら，１年生の時は教師の細かい指示を待っている状況であったが，次第にリーダーを中心に自分たちで合唱表現の工夫を考えるようになってきており，教師が助言をしなくとも自分たちで表現を工夫する基礎は身についていると考えている。

合唱表現には，作品に込められた作詩・作曲者の思いを汲み取り，解釈し，歌声で表すこと，つまり思考・判断し，表現することが求められる。その際に，身につけた技能をどう活かすかを考え，どれを選択するか判断し，よりよい表現をするために実際に利用できることが必要となる。そこで，合唱スキ

ルの効果的な指導法として比喩的表現を用いた指示を織り交ぜることで技能の向上をめざすとともに，よりよい表現をめざして生徒がリーダーを中心として主体的に技能を活用して合唱表現できるよう指導していきたい。さらには練習方法や形態の工夫により，生徒の思考力や判断力が求められる場を増やし，高めさせていきたい。そして他のパートとのかかわりを意識させるとともに，歌詞の内容や曲想，声部の役割や全体の響きの調和を感じ取らせ，曲にふさわしい豊かな表現ができるよう指導したい。

指導目標

１．生徒自ら発声や音程・リズムなどの音楽的技能を活用して合唱表現できるようにする。
２．歌詞の内容や曲想，声部の役割や全体の響きを感じ取らせ，表現を工夫できるようにする。

指導計画

１．パート別および全体練習 ---------- ４時間
２．全体練習 ---------- ３時間
３．まとめの表現 ---------- ２時間（本時はその2時間目）

本時の目標

１．自分の声の状態を理解し，音程・リズムなどの音楽的技能を活用して歌唱することができる。
２．歌詞の内容や曲想を考えながら，歌詞の意味が伝わる表現を工夫して歌唱することができる。

「学びのつながり」の視点

小・中学校音楽科では音楽活動を重視し，活動を通して，自分の思いや意図を演奏に表す方法を一つひとつ身につけさせることが重要であると考えている。学年が進むにつれて，単なる自分の思いや意図から，楽曲の理解を深めて曲想を活かした表現をするための自分の思いや意図へと深化する。さらには，相手に伝える，つまり聴く側を意識した演奏が出来るようになってくる。本授業では，義務教育９年間の集大成として，生徒自らが歌詞の意味や内容，曲想，音楽を形づくっている様々な要素を根拠として，身につけた音楽的技能を作品のどの部分でどう利用するかを自ら思考・判断しながら，自分の思いや意図を聴き手に伝えるような豊かな表現ができるようしたいと考える。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点　（◆ 評価）
１．パート別練習 □発声や音程，リズムなどに注意して，パート別に活動する。 □パートリーダーが中心となって活動する。	○表現を工夫するための方法を助言する。 ・腹式呼吸になっているか。 ・出だしの音からきちんと歌っているか。 ・発声法を意識して歌っているか。 ・音程を正しく歌おうとしているか。 ・強弱などを考えて歌おうとしているか。など ◆自分の声の状態を理解しながら，音楽的技能を活かして歌うことができるか。 【音楽表現の技能】

２．全体練習 □主として生徒指揮，後に教師が指揮をする。 □発声や音程・リズムなどに注意して歌う。 □お互いの演奏を聴き合い，曲にふさわしい表現になっているかどうかを発表し合う。 ・ローテーション形式　など □歌詞の内容をもとに，曲想に合った合唱表現を工夫する。 ・生徒指揮の指示，パートごとの相談　など □部分ごとに曲想の変化をつけて歌う。	○演奏の状態に応じて助言をする。 ・呼吸法や発声法に気をつけているか。 ・リズム，音程，強弱などに気をつけているか。 ・子音の発音を工夫しようとしているか。 ・パートの声を揃えることを意識しているか。 ・他のパートを聴いて，ハーモニーやバランスをよくしようとしているか。 ・言葉の意味を伝えようとしているか。 ・曲想を考えて歌おうとしているか。 ・聴衆を意識して歌おうとしているか。など ○生徒の状況を常に把握することを意識する。 ・授業の流れをスムーズにする。 ・声を休ませるタイミングに気をつける。 ・指示をする時に，一度にたくさんのことを言わない。 ・指示は，あえて抽象的に指示することで自分でどう工夫するかを考えさせるが，効果が表れにくい場合は，徐々にわかりやすく簡潔で具体的な指示をする。 ・今，何を指示するのが生徒にとって最も適切かを，常に考えて指示をする。 ◆歌詞の内容や曲想を考えながら，表現を工夫して歌唱することができるか。 【音楽表現の創意工夫】
３．まとめ □通して歌う。	◆自ら考えた表現の工夫をいかして歌唱することができるか。 【音楽表現の創意工夫】

参考文献　谷川俊太郎作詩・信長貴富作曲『混声合唱組曲「いまぼくに」』カワイ出版，2005.

松前良昌・濵本恵康・三村真弓「高次の学力を支える音楽的技能の効果的な指導法Ⅲ－比喩的表現を用いたキーワードによる発声指導の実践研究－」広島大学附属東雲中学校，2013.

松前良昌・濵本恵康・三村真弓「高次の学力を支える音楽的技能の効果的な指導法Ⅱ－正しい発声で歌えるために，比喩的表現を用いた歌唱指導を通して－」広島大学附属東雲中学校，2012.

松前良昌・濵本恵康・三村真弓「高次の学力を支える音楽的技能の効果的な指導法－正確な音程で歌えるために，自分自身の声を聴く試みを通して－」広島大学附属東雲中学校，2011.

三村真弓・松前良昌他『中学校・高等学校音楽科における聴取力育成プログラム開発のための基礎的研究－聴取力に着目した音楽科学力調査をとおして－』学部・附属学校共同研究紀要No.39，広島大学学部・附属学校共同研究機構，2010.